

3 被覆肥料の被膜殻の流出防止

水田では肥料成分が溶出した後の被膜殻が水面に浮上し、河川や海洋等に流出する可能性があります。

被覆肥料を利用している場合は、浅水代かきを行うほか、代かきや田植え前の強制落水は避けるなどの水管理を行うことにより、被膜殻をほ場外に流出させないように注意しましょう。

また、土壌診断に基づく適正施肥を行うとともに、プラスチックを使用していない緩効性の肥料など、他の機能性肥料の活用も検討しましょう。

流出させない水管理

- 浅水代かきや代かき・田植え前の水位調整を強制落水ではなく自然落水で行うことは、**被膜殻**だけでなく、**濁水や肥料成分の流出防止**にも有効な取組です。

水管理のため、代かき等の作業前に畦畔等からの漏水がないよう、点検・補修しましょう。



他の機能性肥料の活用

- 機能性肥料には、被覆肥料のほかに、肥料成分を水に溶けにくくして分解速度を調整したものや、硝酸化成抑制剤を加えて肥料成分の利用率を高めたものがあります。

<例：硝酸化成抑制剤入り流し込み液肥>

基肥にも追肥にも使用可能な流し込み専用肥料も開発されています。



プラスチック資源循環アクション宣言

農業生産分野では、使用済みプラスチックの適正処理、排出量の抑制、海洋への流出防止などの観点から、資材の製造、流通や利用に関係する団体等による自主的な取組の宣言が行われています。

宣言を行った企業、団体等は農林水産省のホームページで紹介しています。

<http://www.maff.go.jp/j/plastic/torikumi.html>

このパンフレットについてのお問い合わせ

農林水産省 生産局 農業環境対策課（資源循環推進班）

電話：03-3502-5956

プラスチックと賢く付き合うための 農業生産現場での取組

【①適正処理、②排出抑制、③流出防止】

近年、国内外で海洋ごみをはじめとしたプラスチック問題が注目され、その対応が強く求められています。

プラスチック問題の解決に向けては、あらゆる主体が、それぞれの立場でできる取組を行いプラスチックと賢く付き合うことが重要とされています。

生産資材としてプラスチックを使用する農業生産の現場においても、①農業由来廃プラスチックの適正処理の徹底、②農業由来廃プラスチックの排出抑制、③被覆肥料の被膜殻の流出防止策などの実践により、プラスチックと正しく付き合しましょう。



令和元年6月
農林水産省生産局

1 農業由来廃プラスチックの適正処理

農業生産で使用したプラスチックは、法律に基づき、農業者が自らの責任で適正に処理する義務があります。

資源有効利用の観点から適正処理はリサイクルが基本です。回収した農業由来廃プラスチックは、リサイクルされやすくなるよう正しく分別しましょう。

必ず回収！！

- 農業由来廃プラスチックは**産業廃棄物**です。
- 農業者自らが適正に処理することが義務づけられています。使用後には**必ず回収**しましょう。

不法投棄や不法焼却（野焼き）は法律で禁止されています。



分別と異物の除去

- 農じ、農ポリなどの種類別に**正しく分別**しましょう。
- **金属、作物残渣、泥などの異物**を取り除いてから定められた方法で梱包しましょう。

農じ

- ◆ このマークが目印
- ◆ 切り口が透明で、波が少ない
- ◆ 燃えにくく、刺激臭あり
- ◆ 柔らかく伸びがある



農PO ノーポリ

- ◆ このマークが目印。または、何の印字もなし
- ◆ 切り口が波を打ち、白化
- ◆ よく燃える。ろうそくのような臭い
- ◆ やや硬く、ゴワゴワした感じ



地域での適正処理

- 回収・処理の体制は、市町村等の単位で整備されていますが、分別や回収の方法は地域によって異なります。
- 分別方法、回収日や回収場所が不明の場合には、市町村、JA、地域協議会に確認して**地域での適正処理**を進めましょう。



『農業用使用済プラスチック適正処理のごあんない』（一般社団法人日本施設園芸協会）
<http://www.jgha.com/project/plastic/tekiseisyori.pdf>

2 農業由来廃プラスチックの排出抑制

農業用フィルムでは、無駄な使用を減らすとともに、排出抑制に資する資材の利用や可能なものは再利用するなどにより、農業由来廃プラスチックの排出抑制に努めましょう。

中長期展張フィルム等による長期利用

- 中長期展張タイプの被覆資材は耐久性が高く**3～5年間継続して利用**できます。
- 張り替え作業の省力化や張り替えコストの削減などにより**トータルコストを低減**できます。

毎年行っていたフィルムの張り替え作業が不要になります。



価格は高いものの、長期的にみるとコスト削減になります。



生分解性マルチの利用

- 生分解性マルチは、土壌中の微生物の働きにより、最終的には**水と二酸化炭素に分解**されます。
- 収穫後は、作物の残渣と一緒にすき込むだけで良いため、**回収作業の省力化と処理コストの低減**が図られます。

重労働であるマルチの剥ぎ取り作業は必要ありません。



収穫後は飛散や流出しないよう、速やかにしっかりとすき込みましょう。



『生分解性マルチフィルム普及マニュアル』（農業用生分解性資材普及会）
http://www.aba-seibunkai.com/mulch_manual_2014.pdf

まだ使えるフィルム等の再利用

- バンカーサイロの被覆材に用いるフィルム等は再利用を検討しましょう。